

令和 8 年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について ～実証実験に参加する事業者を採択しました～

国土交通省道路局は、物流危機への対応やカーボンニュートラルの実現を図るため、道路空間に物流専用スペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段により貨物を運搬する新たな物流システム「自動物流道路」の構築を推進しています。

今般、令和 8 年 7 月 22 日から令和 8 年 8 月 21 日まで公募を行った、「令和 8 年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」について、事業者を採択しましたので、お知らせします。今後、実験実施に向けて採択事業者と実験計画の調整をしていきます。

■採択事業者

別添資料に記載のある事業者

■公募時の記者発表について

令和 8 年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について（令和 8 年 7 月 22 日）

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_002120.html

（参考）

自動物流道路に関する検討会 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/buturyu_douro/index.html

自動物流道路（オートフロー・ロード） 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/

自動物流道路の実装に向けたコンソーシアム 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/autoflowroad_consortium/index.html

＜問合せ先＞

道路局企画課道路経済調査室 企画専門官 藤岡、係長 井手野

代表：03-5253-8111（内線 37-622、37-623）、直通：03-5253-8487

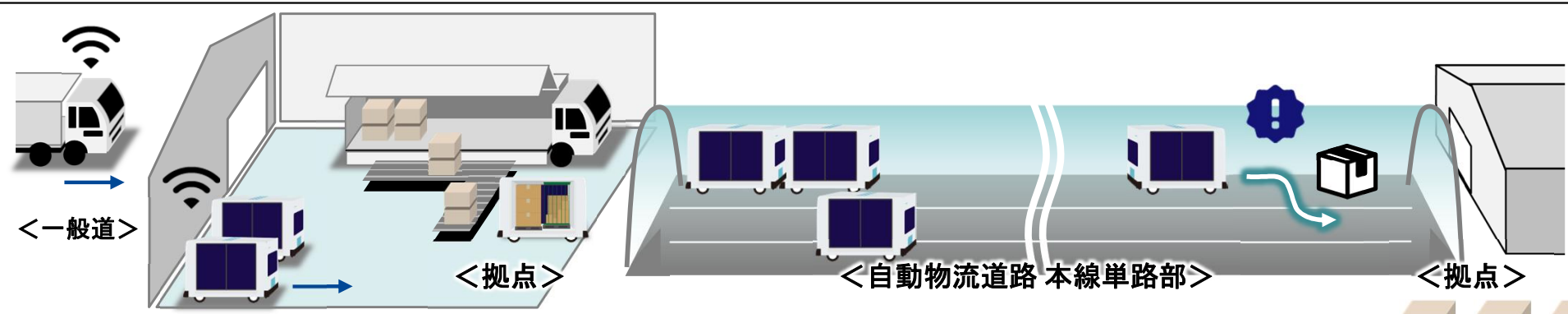


採択事業者一覧

参加グループ	実証テーマ
株式会社ロジスネクスト	テーマ 1
株式会社豊田自動織機	テーマ 1
清水建設株式会社、株式会社 IHI、 野村不動産株式会社	テーマ 1、 テーマ 2 (1) (2) (3)
大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、 大成ロテック株式会社	テーマ 2 (1) (2) (3)
千葉県、成田国際空港株式会社、株式会社大林組、Cuebus 株式会社、株式会社 NTT データ	テーマ 2 (1) (2) (3)
鹿島建設株式会社、三菱電機株式会社、西濃運輸株式会社、ダイナミックマッププラットフォーム株式会社	テーマ 2 (1) (2) (3)
株式会社フォーラムエイト	テーマ 2 (シミュレーションによる対面走行、高速度走行での圧力波等影響評価に限る)

令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験 概要

- 目的:「令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」では、昨年度と同様に既存の技術及び既存施設を活用しつつ、自動、無人で荷物を運ぶという自動物流道路のコンセプトについて、複数台の搬送機器を用いての走行性能及び自動運転設備等の簡素化可能性を検証し、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行う。
- 公募期間:7月22日(水)～8月21日(金)を予定
- 実験場所:国土技術政策総合研究所の試験走路又は成田国際空港施設内
- 実験期間:令和8年10月～12月を予定(別途調整)



【テーマ1】拠点における荷役<拠点>

・机上検討、シミュレーションにより、車両、搬送機器の出入量に応じた複数荷役機器等による処理能力(時間)を検証し、拠点必要面積等を検証する。

【テーマ2】複数台の搬送機器の自動走行<本線・拠点>

- (1) 現行の搬送機器の走行性能の検証
 - ・複数の搬送機器(3台以上)による自動走行(曲線部走行等)を行い、必要な幅員等の検証を行う。また、車線変更、分流、合流、すれ違い等の実証により、バッファリングレーンの実現可能性を検証する。その際、積載貨物への影響、異常検知、危機回避時の走行性能を確認する。
- (2) 自動運転設備等の簡素化の検証
 - ・専用空間を念頭とした自動運転設備等の簡素化可能性の検証を行うとともに、インフラ協調の必要性を検証する。
- (3) その他
 - ・机上検討にて、路側インフラ、搬送機器、拠点、車両間のシステム連携を検証する。
 - ・実験中の電力消費量、通信環境、運行管理手法等のデータ取得する。

